

2020 年度環境共生学会学会賞授賞者一覧

1 論文賞

(1) 小林航・林希一郎・大場真

1955 年と現在の生態系サービス供給ポテンシャルの比較分析—愛知県西部の事例—
019 年 35 巻 5-17

授賞理由

本論文は、土地利用データを基に、都市圏から山間部の約 50 年間における生態系サービスの変化の分析を行うことによって、生態系サービスの新たな総合評価手法を提案する意欲的な研究である。本論文の分析過程において、既存データの精度の問題点に対する対応策や今後の課題を詳しく解説している点は、当該分野の研究の推進にとって有意義な成果を提供するものである。また、文化的サービス等の評価手法において、研究手法は独創的であるとともに、その分析手法が詳細に述べられているため、同様なデータを用いることによる研究内容の再現性が高い点も社会への還元性が高い研究と認められる。これらの諸点を鑑みると、本論文は論文賞に相応しいと考えられる。

(2) 鈴木 絢人, 伊東 英幸, 藤井 敬宏

エゾシカと車両の事故多発路線を対象とした事故発生要因の比較分析
2020 年 36 巻 12-20

授賞理由

論文賞の対象となった学会論文誌「環境共生」第 36 巻 1 号の掲載論文「エゾシカと車両の事故多発路線を対象とした事故発生要因の比較分析」は、北海道内の一般国道においてエゾシカと自動車の衝突事故の 1km 当たり発生件数が上位 3 位路線である国道 44 号、36 号、240 号を対象として、先行研究と比べて 6 年間という長期の事故件数データを使用するとともに、エゾシカ生息密度指標、道路構造、沿道環境、土地利用、事故対策施設などの道路環境要因データを現地調査等から整理した上で、事故発生に与える影響要因について負の二項回帰モデルで分析している。その結果、道路照明の設置等による事故減少効果や、路線ごとに異なる事故発生要因等を明らかにしており、将来的には、新設道路における環境アセスメントへの活用や事故リスクの高い道路区間抽出への発展等が期待される。以上より、環境共生に関する知見や研究手法を着実に発展させる「環境共生深化的」価値の点から、論文賞に非常に相応しいものである。

2 奨励賞

豊田 祐輔 立命館大学 政策科学部

学位論文「人口流動期における都市部のコミュニティ避難計画に関する研究」

学位授与年月日 2012-09-25 学位名 博士(政策科学) 立命館大学

授賞理由

奨励賞の対象となった博士(政策科学)学位論文「人口流動期における都市部のコミュニティ避難計画に関する研究」は、人口減少・少子高齢化による都市部における人口流動に伴い社会関係資本が希薄な新住民が増加し、避難時共助の発現機会の低下という脆弱性の増大期にある日本において、避難時共助の発現機会を増加させ、震災後避難時における生存確率を向上することが期待できる操作可能な行動体系によって構成される「コミュニティ避難計画モデル」を設計し、その有効性を京都市北区等持院北町における社会実験を通じて実証したものである。以上より、本論文は、将来性を有する環境共生に関する萌芽的なものであり、奨励賞に非常に相応しいものである。また、その研究成果や授賞者の研究及び社会貢献活動等は、人口減少・少子高齢化・社会関係資本が希薄化する状況下において、防災まちづくり及び地域防災力の向上に寄与することが期待される。

3 著述賞

(1) 風見正三

「森の学校を創る―震災復興から発する未来の教育」

山口北州印刷株式会社 2020年

授賞理由

東日本大震災で甚大な被害を受けた東松島市(宮城県)における、野蒜小学校と宮戸小学校を統合した宮野森小学校を新設し、地域とともに運営することの経緯について、詳らかにした書である。本書は、著者らが震災後からコミュニティデザインとして宮野森小学校の新設、運営、加えて地域との連携の全てが明らかにされている。震災復興という極めて特殊な条件の中で生まれたプロジェクトであるが、公立の小学校を子どもたちや教員、保護者、行政、地域内外の企業等によりコミュニティデザインの意義も込めて協働で構想、計画したこと、エコロジカルプランニングによって地域の生態系と共生する校舎、校庭等の敷地計画をデザインしたこと、さらに、こうして構築されたコミュニティやハードを活用した実践型の教育プログラムも開発したそのあり方は、他の地域への波及効果も大いに期待され、SDGs 達成への貢献度が高い。本書の内容は、コミュニティ・スクールの開設・運営を考える人々にとって、非常に高い価

値を持つといえる。環境共生社会を進展させる力を持った著書であり、本学会の著述賞に誠に相応しい。

(2) 林良嗣・桑原淳

「道路建設とステークホルダー合意形成の記録—四日市港臨港道路霞 4 号幹線の事例より」

明石書店 2017 年

授賞理由

様々な生き物が生息し、市民の憩いの場になってきた高松干潟に多くの橋脚を建てる架橋計画に対して大きな反対運動が起こった四日市港港湾道路霞 4 号幹線。本書は、その 16 年にわたる紆余曲折を乗り越えた挑戦的かつ先進的な合意形成の取り組みについて、その経緯をありのままに平易な表現で分かり易く丁寧に紹介した記録である。社会、環境、雇用を含む経済などの多角的な視点の下、調査検討委員会と各部会が連携しつつ、コンテナターミナル機能拡充の必要性自体の見直しから開始し、ゼロ代替案を含めた多くの代替ルートの比較検討や、非常に多くの市民からの意見に丁寧に耳を傾け、一つ一つの意見を見逃さず課題を共有する徹底さなど本書から学ぶことは多い。従来のあるべき公共事業の検討プロセスに一石を投じる書として、高く評価される。

4 活動賞

宮城大学風見正三研究室(代表:風見正三)、宮城県東松島市教育委員会
「森の学校」プロジェクト—小学校におけるサステナブルコミュニティデザインの取組(宮城県東松島市立宮野森小学校)—

授賞理由

「森の学校」は、東日本大震災で被災した東松島市において「創造的復興」を目指した統廃合・高台移転を伴う学校再建のプロジェクトの一環として、「自然と共に生きる学校」「地域と共に生きる学校」というコンセプトを実現するために、自然体験や地域交流を含めた独創的な教育プログラムを構築するとともに、その実践に相応しい「森と一体となった木造校舎」を再建し、自然との共生を目指した新たな試みの活動として評価できる。

また、学校計画の策定プロセスにおいても、専門家だけでなく地域の子供達や教員も含めた多様な意見を踏まえ、森の恵みとともに地域と生きていくことが学べる先進的なコミュニティデザインは、今後の学校教育のあり方の概念を変える可能性も秘

めており、環境共生の観点から、学術の進展、社会の進展及び問題解決に寄与する非常に重要な活動だと判断される。

5 功労賞

佐藤洋平 一般社団法人フードビジネス推進機構 代表理事 東京大学 名誉教授
農業環境分野における研究・教育、学術への貢献及び日本環境共生学会への貢献

授賞理由

授賞者は、宇都宮大学、筑波大学、東京大学等において長年にわたり環境共生に関する研究・教育活動を実践されてきた。

特に農村計画や農業環境の分野における学術的貢献は著しい。また、日本学術会議会員(第6部)、独立行政法人農業環境技術研究所理事長等も歴任され、日本の学術研究に対して多大な貢献をしてきた。さらに、the International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES) の President および国際誌 Paddy and Water Environment の Editor-in-Chief を務めるなどの国際的な学術活動にもご尽力されてきた。現在は、一般社団法人フードビジネス推進機構代表理事として、食・農分野における新事業創出に取り組まれている。

また、本学会においては 1998 年日本環境共生学会入会以来、2000 年 - 2010 年理事、2010 年-2018 年 9 月副会長、2018 年 10 月-現在常務理事として、一貫して中心的な会員として活躍し、本会の発展に大きく貢献して下さっている。

以上より、功労賞として相応しいと評価する。